

## 「盛土規制法」各地で運用始まる

盛土等による災害から国民の生命・身体を守る観点から、盛土等を行う土地の用途やその目的にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制する「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称「盛土規制法」）が、令和5年5月26日から施行されました。盛土規制法における全自治体の規制区域の指定完了の経過措置期間が2年であったため、令和7年5月を目途に各自治体で具体的な運用が始まっています。

規制区域の指定日以降に新たに土質改良プラント・ストックヤードを設置する場合は、許可が必要となります。既にストックヤード登録をされている事業者は、規制区域の指定日から21日以内の届出が必要となります。届出を終えましたら、ストックヤード登録の「盛土規制法の届出」を行なった旨の変更届を30日以内に行ってください。

土石の一時堆積許可・届出面積には、各自治体によって違いがあるようですので、必ず、土質改良プラント・ストックヤードを設置する県、政令指定都市、中核市の担当部署にご確認ください。また、許可・届出申請には手数料が発生しますので、こちらも担当部署でご確認ください。なお、工事の施行に付随して行われる土石の堆積で、当該工事の現場又はその付近に一時堆積する場合など、適応除外となるケースもありますので、詳細は各自治体の担当部署でご確認ください。

不法盛土等が発覚した際には監督処分・改善命令が発せられ、それに従わない場合には、最大で懲役3年以下・罰金1,000万円以下、法人重科罰金3億円以下と重い罰則が課せられますので、十分注意の上、許可・届出申請を行うようにしてください。

参考：[国土交通省「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称「盛土規制法」）について](#)

## 「登録土質改良基幹技術者」第1回講習を開催！

JASRAは国土交通大臣から令和6年8月8日付けで「登録土質改良基幹技能者」講習の実施機関として登録を許可されました。本技能者に認定されますと、経営事項審査2点（技術力）に3点の評価、建設キャリアアップシステムの最高位ゴールド（レベル4）評価、総合評価落札方式での加点などを得ることができます。

第1回の講習を令和7年5月31日・6月1日の2日間、東京・水道橋で開催します（受講受付は終了）。第2回は11月15・16日に東京都内で開催予定ですので、受講をご予定おきください。

詳細：<https://jasra.or.jp/sict/index.html>



会員紹介

**前田建設工業株式会社**

東京都千代田区富士見二丁目 10 番 2 号  
 TEL 03-3265-5551 (代)

**前田建設について**

前田建設は、1919年に福井で創業し、2021年にグループ企業2社とともに共同持株会社インフロニア・ホールディングスを設立。創業以来受け継がれるチャレンジ精神とグループ各社が持つ専門性・強みを活かし、企画提案から運営・維持管理までワンストップのマネジメント実現を目指す「総合インフラサービス企業」として、技術開発・新規事業にも取り組んでいます。



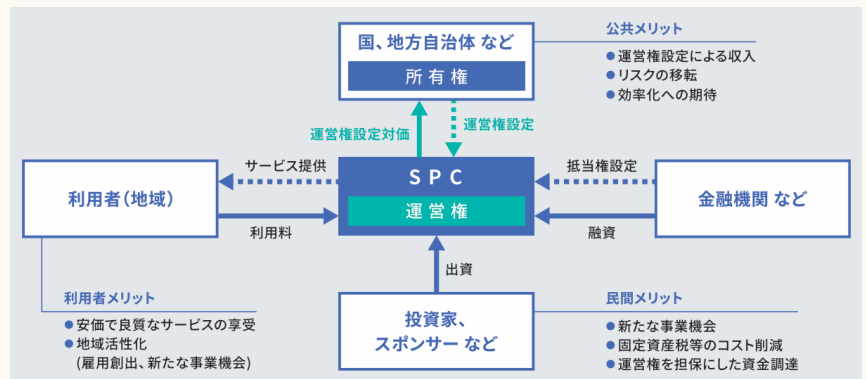
〒102-8151 東京都千代田区富士見二丁目10番2号



前田建設工業株式会社はインフロニア・ホールディングスグループの一員です

**インフラ運営事業**

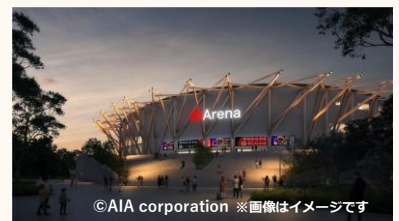
国・地方自治体の財政悪化と、今後見込まれるインフラの老朽化による維持・更新費の増加という課題に対して、前田建設が示す解決策は、コンセッション事業や地域に根ざした包括的民間委託事業です。課題解決のための多彩なノウハウを蓄積し、地域の活性化を目指します。



仙台空港 (宮城県名取市)



愛知県有料道路 (愛知県)



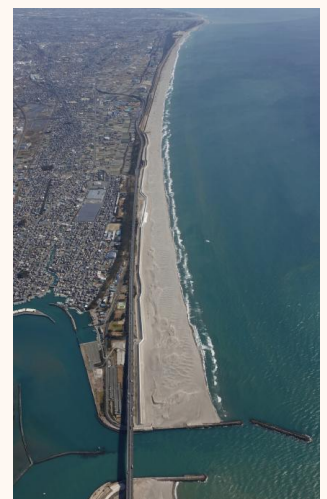
IGアリーナ (愛知県)

**「土」を活用したグリーンインフラストラクチャー**

生物多様性保全の目的は、自然が人類にもたらしてくれる「生態系サービス」の持続的利用にあります。当社では「生態系サービス」を「地球からの恩恵」と捉え、事業・企業・個人領域での取り組みを実施してきました。

静岡県に建設された浜松市の防潮堤もその一つで、当社は、CMr (Construction Manager: 工事を総合的に管理する事業者) として、全体延長のうち 5km 区間の防潮堤築堤工事を実施しました。

本工事は、地域住民・企業が一体となって地元のための防潮堤を築いたものであり、近隣自治体でも防潮堤建設に向けて寄付が盛り上がるなど、今後の地域防災の取組みに大きな影響を与えた事業であることが評価され、日建連表彰土木賞特別賞を受賞しました。



## 建設発生土の管理・管理システムの開発

### ● 残土海上輸送の調整 と 土量管理

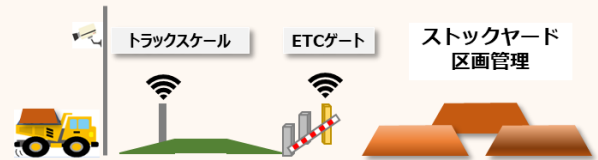
晴海再開発 5-5 作業所では、①各工区の搬出予定を勘案した最適な運搬計画の調整・指示（海上輸送をフル稼働させるためのストックヤードの管理）、②各工区からの搬出量（海上輸送/ストックヤード）の実績把握、③ストックヤードでの保管量の管理を実施しました。



### ● 鉄道貨物による土砂運搬 と スtockヤードの管理

川崎市は、建設発生土等を有効活用した東扇島堀込部の埋め立てを実施しています。梶ヶ谷シールド作業所は、リニア中央新幹線のシールド掘削で発生した建設発生土の一部を、鉄道貨物で輸送することでトラック輸送によるCO2を削減します。

また、大黒ふ頭の建設発生土積替えヤードでは、ETC ゲートとトラックスケールを連動させた、発生土管理システムを提供し、工事のDXに努めています。



### ● IoT 機器とクラウドを活用した “盛土品質管理システム”

近年の豪雨・地震などに伴う盛土災害が増加し、舗装工品質管理の高度化が求められています。さらに、計測した品質管理データは、都度整理・分析・帳票化する必要があることから、大林組と共同で、「AtlasX」を開発しました。浜松市沿岸舞阪工区防潮堤にて実証試験運転を実施し、フィルダム、台形CSGダムの盛立工や舗装工事での活用も見込んでいます。



## 人と知と文化の開発拠点、ICI 総合センター

ICI 総合センターは、前田建設の「知」の集積地であり、価値創出の発信地です。“Mother of Innovation 空想を、ともに現実へ”という理念のもと、建設発生土の有効利用を含むさまざまな社会課題の解決を目的とし、民間企業、大学、自治体などの様々な共創パートナーと技術の開発・新たなビジネスの創世を目指します。

※ ICI へのお問い合わせ：[問い合わせ先](#)



ICI Lab

異業種交流を促す「エクスチェンジ棟」、リラックスと集中を提供する「ネスト棟」、世界レベルの実験施設を有する「Garage 1 & 2」の4棟で構成される技術研究。



ICI Camp

多様なセミナールーム、ミーティングルームを備えるとともに、約200人規模の宿泊施設、こだわりの食堂なども揃う、研修、議論、合宿に最適な施設。



ICI Studio

旧渡辺甚吉邸と、隣接する W-ANNEX からなる、様々な分野のパートナーとの交流や活動を実現する、技術・文化・芸術・ヒトの創造拠点。

## 第10回技術研修会 報告

# 「土質改良材の最新技術・応用事例・環境への配慮」

令和7年2月26日、会員向け第10回技術研修会「土質改良材の最新技術・応用事例・環境への配慮」が東京・新橋会場とWEBで併催され、合計約40名が参加した。

最初に、日本石灰協会の後藤氏（河合石灰工業）より、国内の石灰出荷量、石灰による改良土の特性、必要最小添加量、災害復旧工事事例などを解説。「石灰改良は、安定した硬さの品質確保ができ、必要な時に必要な盛土量を提供できる」と述べ、豪雨災害で決壊した堤防の盛土材料として貢献した例が発表された。

次に、（一社）セメント協会の清田氏より、セメントの原料と製造工程、セメント系固化材の種類と特徴、六価クロム基準強化の動向などが解説された。「セメント改良は、エトリンガイドの生成により土粒子を固定化し、軟弱地盤に幅広く活用できる特徴がある」とし、防災・減災・国土強靱化に資するセメント系固化材による地盤改良に関して調査報告書にまとめ発行していると説明された。

その次に、（株）田中建設の田中氏より、石膏系固化材が紹介された。廃石膏ボードを再利用することで環境保全に効果的ばかりでなく、天然固化材に比べて低コスト化を実現。今後は、産業廃棄物再資源化を推進すると共に、CO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みも強化すると発表された。

最後に、（一社）土壌環境保全技術協会の稲澤氏より、業界用語の整理から始まり、「メタルシャット」による重金属不溶化や「オイルシャット」による油分浄化など、用途別に特殊固化材の適用事例を解説。「建設発生土100%の再生利用を目指す」と締めくくった。

質疑応答も盛り上がり、次回の技術研修会に期待が寄せられた。



「有機と無機を組み合わせた土質改良材の発展を期待する」など、会場では活発な意見が交わされた

## お知らせ

### 【1】 行事予定

- ・6月20日（金）：第6回建設発生土リサイクル講習会 /会場：クーポール会館（静岡県静岡市）
- ・10月17日（金）：土サミット2025 /会場：ホテルニューオータニ大阪（大阪府大阪市）

### 【2】 定時社員総会の予定

- ・8月21日（木）：「第5期定時社員総会」 /会場：第一ホテル東京（東京都港区）

### 【3】 4月10日現在の会員数

- ・正会員69社 賛助会員33社 特別会員2社 合計104社

事務局

一般社団法人 全国建設発生土リサイクル協会

〒101-0023 東京都千代田区神田松永町22

電話：03-3526-2129 FAX：03-3526-2139

E-mail：[jimukyoku@jasra.or.jp](mailto:jimukyoku@jasra.or.jp) URL：<https://jasra.or.jp/>

-----JASRA ニュース VOL.14 令和7年4月10日発行-----